競技･審判上の注意

1．　本大会は、令和５年度（公 財）日本バドミントン協会　競 技規則・大会運営規程・公認審判員規程により行います。

2．　競技中の服装については、（公財）日本バドミントン協会の審査合格品とします。着衣上の背面、広告、ロゴなどの表示については大会運営規程24条を厳守して下さい。なお、背面については、所属クラブ名・都道府県名の両方を必ず明示してください。明示なき場合、失格となる場合もあります。
また、ゼッケンを使用する場合、四隅止めとしてください。ウェア上の広告は事前に申請された内容で、規定にしたがって表示すること。

3．　背面のチェックは、第１試合目は主審がコートで確認します。第２試合目以降は選手待機所にて確認します。

4．　対抗戦は、一般男子・一般女子の部は、第１複－第１単－第２複の順、で行い、成年男子・壮年男子A・壮年女子・年代別混合Aについては、若い年代から順番に行います。予選リーグ及び交流戦は全てのマッチを行い、順位決定トーナメントは勝敗決定後打ち切りとします。

5．　審判は予選リーグおよびシニアの部で決勝トーナメントがないリーグ戦と交流戦の第１試合は主管で行い、線審・得点係は相互審判とします。第２試合、第３試合は主審・線審・得点係を相互審判とします。試合終了後は主管で立会い、挨拶の後退場します。
チャンピオンカップの部の決勝トーナメントの準々決勝までと決勝リーグ、シニアの部の決勝の主審は主管で行い、線審・得点係は相互審判とします。
なお、チャンピオンシップの準決勝は、主審・サービスジャッジを主管で行い、線審・得点係を相互審判とします。チャンピオンカップの部の決勝は主審・サービスジャッジ・線審2名・得点係とし、主管にて行います。

6．　試合の進行は、試合番号順に流し込み方式で行いますのでコールに注意してください。ただし、番号順で始められない試合がある場合、試合番号を飛ばして進めていきます。

7．　オーダー用紙の提出について
(1) 第1日目の10時開始予定の試合は、9時までにオーダー用紙提出所に提出して下さい。以後の対抗戦は、本部よりコールしますので、早急に、オーダー用紙提出所に提出してください。
（但し、前の対抗戦が終わっていない時は、終了後ただちに提出して下さい。）
(2) オーダー用紙は、所定の用紙に記入し提出して下さい。なお、提出後の変更は認めません。
(3) 第2日目、3日目の第1試合目のオーダー用紙は前日の試合終了前までに提出して下さい。

8．　初日の第１試合目の監督・プレーヤーは指定コートのベンチ席に着席して下さい。プログラムの若番チームが主審席から見て右側に入ります。９時３０分から開始式を執り行います。その他の選手は観覧席に着席して下さい。
第２試合目以降の監督・プレーヤーは本部のコールに従い、選手待機所に集合して下さい。選手待機所で背面チェックを行い、主審先導で入場します。コール後10分を経過しても出場選手が確認できない場合は棄権とみなす場合があります。

9．　マッチ開始前のウォームアップは、対戦チームとあいさつを交わした後、マッチ毎に主審が審判台に座った時から「（ラブオール）プレー」のコールまでの３分間ですが、主審の「レディートゥプレー（マッチ開始の準備をしてください。）」のコールで練習を終了し、マッチ開始の準備をしてください。

10.　コーチ席を各コート（主審側）に２席設置します。着席できるのは、監督・コーチ・プレーヤーに限ります。プレーヤーが着席する場合にも、コーチの服装に関する規程（公認審判員規程第５条第１２項(８)(９)）が適用されます。長ズボンまたはスカートを着用して下さい。インターバル中に競技区域に入れるのは、同時に２名までとします。

11.　判定に疑問がある時は、当該プレーヤーと監督に限り主審に質問できますが、抗議や異議は認められていません。

12. シャトルの交換については、主審が必要かどうかを決定します。またシャトルのスピードについては、レフェリーが決定します。
13. 水分補給、汗拭き等については、主審の許可を得た上で行って下さい。コートサイドには カゴやドリンクケースは設置しませんので，バッグ等を持参し，主審側コートサイドに置き，汗ふき用のタオル･予備のラケット･水分補給用の容器は各自のバッグに収納してください 。容器は，スクイズボトル･ペットボトルなど、倒れてもこぼれないもの(蓋付き)としてください。また競技区域及びベンチへのクーラーボックス等の持ち込みは禁止します。なお、試合中の氷嚢の使用については、 インターバルのときのみとします。
14. 汗を手で拭い、コート内外（競技区域）に投げ落とす行為については、不品行な振る舞いに相当するものとみなします。（競技規則第16条第6項の4）
15. 競技フロアーでは、競技者(監督、プレーヤー等）の携帯電話、パソコンなどのモバイル機器やカメラの使用を禁止します。競技フロアーでは、電源をOFFにしてください。
〔公認審判員規程第５条第１２項(５)(６)〕。モバイル機器を使用してのマッチ中のアドバイス・コーチングは禁止されています。
16. 棄権の扱いについては以下のとおりとします。
    (1) 怪我や病気による棄権の場合は、その後の対抗戦に出場する事は、レフェリーが医師または医療補助員などの助言に基づき判断を下します。(ただし、慶弔を除く、自己都合による棄権は、その後の出場を認めません。)
    (2) 勝敗決定後のメンバー変更は認めません。
    (3) マッチ途中、棄権となったマッチについて、取得ゲーム率等を計算する際には、ゲームカウントは２－０とし、ポイントは２１－０・２１－０とします。
    (4) 試合中のケガや病気については、主審の判断によってレフェリーまたはデピュティレフェリーを呼び、レフェリーまたはデピュティレフェリーが医療役員やその他の人をコートに呼ぶ必要があるかどうかの判断を下します。
17. 対抗戦が連続する場合、１５分間の休憩を認めます。
18. マッチ終了時に、勝敗に関係なく主審・サービスジャッジにお礼の意味を込めて一礼するように心がけてください。